

令和2年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学等名	東京都市大学	整理番号	5
メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	ゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム		

【採択理由】

本事業計画は、日本の製造業の再生に向けて、集中型や孤立的な「もの」づくりではなく、自律分散型でありながらも「つながり」を持つレジリエンスな「もの」づくりや、選ばれる「もの」のための「ひらめき・こと」づくりへの転換を図る教育を行うため、文理横断・学修の幅を広げ、主体性と専門性を共存させながら、「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりを「AI・ビッグデータ・数理データサイエンス」でつなぎ、統合的な学びへと展開させていく教育プログラムを構築するものである。

「もの」づくりを支えてきた機械工学や電気電子などの伝統的な知の体系による個別的な思考アプローチによる個別最適解の追及の限界に対する危機感を基に、知識集約的な思考アプローチによる全体最適解を得る人材育成への転換が必要であるという課題認識、ゲームチェンジ時代における新たな製造業を切り拓く人材育成プログラムとして分野融合の学び（もの）、文理横断・学修の幅を広げる学び（ひらめき・こと）、グローバル・幅広い教養と統合的な学び（ひと）で構成する複数のディシプリンを修得できる教育課程、これにより養成する資質・能力のいずれも明確であり、高く評価できる。

また、本事業計画は、全学的な教学マネジメントの下で行われ、3つの学びと5つの力の科目群から構成され、従来からある全学共通教養科目、専門基礎科目、専門科目の科目区分を組み替え、新たな教育課程の体系化を図ろうとするものである。併せて、三つのポリシーを踏まえ、これまでの標準ルーブリックの活用に加えて、個々の学生の主体的な学修と体系的な学びを確立するため、プレ・ディプロマサプリメントやeポートフォリオの活用を通じて学修成果・教育成果の把握・可視化を実現する計画となっていることは評価できる。さらに、ファカルティ・ディベロップメント

(FD)、スタッフ・ディベロップメント (SD)、アクティブ・ラーニングや課題解決型学習 (PBL) 科目による学修者本意の学びの取組、学修アドバイザーやコーディネーターによる学生への履修指導など教職協働の学修支援を含め、教育プログラムにおける学修目標を達成するための方策が十分に考えられている。

これまでの教育改革の取組について、社会変革に応じて柔軟に対応してきている実績が認められること、現状分析と課題の把握も十分に検討されていることも踏まえれば、事業計画が着実に実現される可能性は高いものと考えられ、同時に補助期間終了後の継続的かつ発展的な取組の実施が期待できる。

以上のことから、当該大学の事業計画は、「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学的な教学マネジメント改革」という今回の事業趣旨に沿った理工系モデルとしての画期的な提案となっており、着実な計画の実施が望まれる。